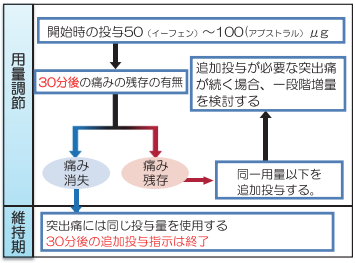
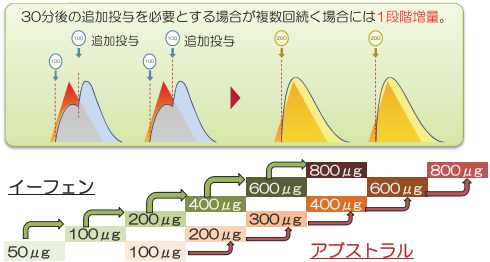
オピオイド製剤換算表

	薬品名	換算比	投与量(mg/day　ただし貼付剤を除く)				備考
経口	モルヒネ散・水・MSコンチン・モルペス・ピーガード・カディアン・パシーフ	1	30	60	120	180	
	オキシコンチン・オキシコドン徐放カプセル・オキノーム	2/3	20	40	80	120	
	タペンタ	3.33	100	200	400	600	600mg以上の有効性は不明
	トラマール	5	150	300			300mg以上は強オピオイドへ
坐剤	アンペック坐剤	1/2～2/3	15～20	30～40	60～80	90～120	
注射 持続静注/皮下注	塩酸モルヒネ注・オキファスト注	1/2	15	30	60	90	
	フェンタニル注	1/100	0.3	0.6	1.2	1.8	
貼付剤	1日放出量(μg/hr)		12.5	25	50	75	
	デュロテップMTパッチ（3日タイプ）		2.1mg	4.2mg	8.4mg	12.6mg	
	フェントステープ（1日タイプ）		1mg	2mg	4mg	6mg	
	ワンデュロ（1日タイプ）		0.84mg	1.7mg	3.4mg	5mg	
⇩				⇩			
レスキュー			1回あたりの投与量（mg/回）				
経口	経口モルヒネ（モルヒネ散・水、オプソ）	定期モルヒネの10～20%	5	10	20	30	30分ごとに追加可
	オキシコドン （オキノーム散）	オキシコンチンの1/8～1/4	2.5～5	5～10	10～20	15～30	60分ごとに追加可
口腔粘膜	アブストラル（舌下）	常に最小量から開始	100→200→300→400→600→800μg				2時間あけて一日4回まで
	イーフェン（バッカル）		50→100→200→400→600→800μg				4時間あけて一日4回まで
注射	モルヒネ・オキファスト・フェンタニル注	1時間量	1時間量を早送り				15～30分ごとに追加可

★フェンタニル口腔粘膜製剤は突出痛に限定して使用すること
★ペンタジン、レペタンはオピオイドと拮抗するため併用はしないこと

フェンタニル口腔粘膜製剤のタイトレーション方法（用量調整）





指示例　オキシコンチン40mg定期下での突発痛出現時タイトレーション期
① アブストラル100μg舌下。30分後疼痛残存時アブストラル100μg舌下
② ①は2時間あけて一日4回まで使用可能
③ 4回使用後又は2時間以内の疼痛出現時はオキノーム10mg 60分あけて追加可能

＊タイトレーション完了し維持期になったら、上記①の30分後追加を省く。

ROO処方前適応確認チェック
- □ 安静時痛がコントロールされている
- □ 一日4回未満の突出痛である （4回以上は定期増量検討）
- □ 定時薬が経口モルヒネ換算で、アブストラルは60mg/日以上、イーフェンは30mg/日以上使用されていること
- □ 従来のレスキュー剤でコントロールが難しい

オピオイド導入処方例（オキシコンチンにて導入の場合）

Rp.1	オキシコンチン	10mg	2T	分2　12時間毎
Rp.2	ノバミン錠5mg		2～3T	分2～3　毎食後
Rp.3	マグミット錠330mg		3T	分3　毎食後
Rp.4	オキノーム散2.5mg		1P	疼痛時　1時間あけて再投与可

※嘔気予防、便秘対策をする。
※嘔気に対する耐性形成のため制吐剤は1～2週間で中止すること
※必ずレスキューを設定する。

増量幅
●経口モルヒネ換算120mg/day（オキシコンチン80mg/day）以下の場合は＋50%
●120mg/day以上・体格が小さい・高齢者・全身状態不良の場合には＋30%

オピオイド等換算の目安

経口タペンタドール 200mg/d	モルヒネ坐剤 40mg/d	トラマドール 300mg/d
経口オキシコドン 40mg/d	経口モルヒネ 60mg/d	フェンタニル貼付剤 フェントス® 2mg
オキシコドン注 30mg/d	モルヒネ注 30mg/d	フェンタニル注 0.6mg/d

オピオイド製剤からフェンタニル貼付剤への切り替え時

	薬品名	貼付前 −12 ↓	貼付時 0 ↓	4 ↓	6 ↓	8 ↓	12 ↓	（時間）
経口	モルヒネ散・水・オプソ		○	○				
経口	オキノーム散		○		○			
経口	MSコンチン・モルペス細粒 オキシコンチン・タペンタ		○					
経口	パシーフなど24時間製剤	○						
坐薬	アンペック坐剤		○					
注射	塩酸モルヒネ注・オキファスト注 フェンタニル注（持続静注・持続皮下注）						中止	

フェンタニル貼付剤からオピオイド製剤への切り替え時（疼痛コントロール良好時）

	薬品名	剥離 0 ↓	12 ↓	（時間）
経口	モルヒネ散・水・オプソ・オキノーム MSコンチン・モルペス細粒 オキシコンチン・タペンタ パシーフなど24時間製剤		開始	
坐薬	アンペック坐剤		開始	
注射	塩酸モルヒネ注・オキファスト注 フェンタニル注（持続静注、持続皮下注）		開始	

★フェンタニル貼付剤使用下で疼痛コントロール不良時にオピオイド持続注射に変更する時は時間を早めて注意深く使用する

オピオイド注射処方例（モルヒネ注、フェンタニル注にて導入の場合）

●1%モルヒネ注（12mg/day）から開始（オキファストでも同様）

1%モルヒネ100mg+生食90ml（総量100ml）
（モルヒネ総量100mg　濃度1mg/ml）　ベース0.5ml/h（12mg/day）
レスキュー0.5ml/回（0.5mg）10分に1回　1時間に6回まで
＊呼吸数6回/分以下で
ベース0.3ml/h・レスキュー0.3ml/回　20分に1回　1時間に3回まで

＊皮下注の場合は1mL/hr以下に設定すること
＊左記組成は投与量によって濃度を濃くするか原液で投与する。
＊一日モルヒネ量240mg以上の場合は4%モルヒネ注で濃度調整する

●フェンタニル注(0.24mg/day）から開始

フェンタニル2.5mg/50ml（50μg/ml）原液
ベース0.2ml/h（0.24mg/day）
レスキュー0.2ml/回（10μg）10分に1回　1時間に6回まで
＊呼吸数6回/分以下で
ベース0.1ml/h・レスキュー0.1ml/回　20分に1回　1時間に3回まで

オピオイド換算表　ver.1（2016年2月）
国立がん研究センター中央病院
緩和医療科